

事業活動実績報告書

施 設 名	遍照院幼稚園
教 育 理 念	優しく(人や物にも) 強く(心や体を) 伸び伸びと(一人一人の個性を生かしながら)

1 事業名	茶道指導
2 実施期間	令和7年5月13日 ～ 令和8年2月27日

3	取組概要	(取組日) 令和7年5月13日 ～ 令和7年7月15日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		畳の和室を使用し、正座を中心に「挨拶の仕方」「立ち方」「座り方」を行う。	
		(取組日) 令和7年9月1日 ～ 令和7年12月15日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		「お茶の道具」を順次出しながら、その「道具の名前」を覚えつつ、取り扱いを覚える。また、お点前を「各部分の習得」から、「一連の流れ」へ移行していく。	
(取組日) 令和8年1月8日 ～ 令和8年2月27日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
「お湯」を使い始めながら、お湯の扱いをしっかりと覚え、「お抹茶」の使用も開始し、少しずつお抹茶を点てて、「友達に振る舞う」ことに慣れる。そして、「お客様」を招く「お茶会」につなげる。			
(取組日) 令和8年2月27日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること			
「お茶会」 1年間かけて自分たちが頑張って、一生懸命に取り組んできた「お茶のお点前」を披露しながら、「心を込めて点てた」お抹茶を、保護者の方々へ振る舞う。また、「自分たちのお抹茶の飲み方」も見ていただく。			

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名		遍照院幼稚園				
教 育 理 念		優しく（人や物にも）強く（心や体を）伸び伸びと（一人一人の個性を生かしながら）				

事業の区分（5領域）		幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの（複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください）				
		健康 ○	人間関係 ○	環境	言葉	表現 ◎
1 事業名		茶道指導				
2 事業概要		年間を通して、茶道の「お点前」を指導し、卒園前に「お茶会」を開催する。				
3 対象学級（クラス名） 対象人数		年長 まつ組			17 名	
計 画 時	4 実施体制		取組に必要な環境（人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等）の保有状況			
			茶道指導 1名、補助講師 1名、補助教員（担任）1名。 お茶会では、他数名が加わる。			
計 画 時	事業後	4についての効果・検証		事業実績から推測される効果や改善点等		
			補助講師を加え、昨年度よりきめ細かい指導ができ、園児の「お点前」の習得が、より確実にできた。			
計 画 時	5 事業のねらい		①日本の伝統文化を知る。 ②礼儀作法を知る。 ③集中力や忍耐力を高める。 ④相手を思いやる気持ちを育てる。			
	事業後	5についての効果・検証		事業実績から推測される効果や改善点等 ①「畳の部屋で正座をする」など、日ごろ家庭では少なくなった時間を過ごせた。 ②「相手を思いやる気持ち」が育まれた。 ③お点前を行うことで、「集中力」がついた。		
計 画 時	6 取組の内容		計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等			
			1学期 挨拶や正座から始め、袱紗のたたみ方等を覚える。2学期 茶道具を使用し、「お点前」を習得する。3学期 お湯とお抹茶を使用し、保護者を招いて「お茶会」を開催する。			
			上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点			
			【健康】正座を行うことで、正しい姿勢を維持できる。 【人間関係】お茶を振る舞うことで、「相手を思いやる気持ち」が高まる。 【表現】お点前を習得することで、茶道の美しい作法を表現できる。			
計 画 時			（継続事業のみ記入）前年度の取組から発展させた点			
			指導人員を2名より3名に増やし、さらにきめ細かい指導が出来るよう配慮した。			
事業後	6についての効果・検証		事業実績から推測される効果や改善点等 補助講師を加えることで、全体の所作だけでなく、「袱紗をたたむ」など園児には難しい所作があり、習得できずに「心が折れそうになる」園児が出てくるが、補助講師が個別に指導することで、「諦めずに取り組む意欲を引き出す」などきめ細かい指導ができるようになった。また、難しい所作ができた時には、「満足した表情をする」など、達成感を表す。お茶会では、「自分が点てたお茶を保護者がおいしそうに飲む姿を「嬉しそうに見つめる」様子が見られる。			

計画時	7 環境構成例	年間を通して行う。 和室で指導を行う。 幼稚園児用の「茶道具・一式」を使用する。
	事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 年間を通して行うことで、園児が、自身の成長を感じられた。 和室を使用することで、「お茶会」の雰囲気を感じられた。 「日本の伝統文化の道具」に触れることが出来た。また、扱い方を知り、楽しみを知ることが出来た。 扱いを知ることで、自信につながった。
計画時	8 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 茶道を通して「礼儀作法」を知り、状況に応じた立ち振る舞いが出来るようになる。 初めての事や難しい事にも、諦めずに最後まで取り組む。 「相手を思いやる心」をそだてる。
	事業後	8についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 茶道を通して「礼儀作法」を知り、状況に応じた立ち振る舞いが出来るようになった。 初めての事や難しい事にも、諦めずに最後まで取り組めた。 「相手を思いやる心」がそだった。
	9 効果検証総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ・日本の伝統文化を知ることが出来た。 ・物事に集中して取り組めた。難しい事でも諦めずに行い、自信がついた。 ・お茶の道具を扱うことで、「ものを大事に丁寧に扱う」ことを覚えた。 以上の経験は、小学校生活の基盤となる。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。